

4月に入り桜の花も満開になり、暖かい日が続いています。皆様いかがお過ごしでしょうか。

新しい年度を迎え、職員一同気持ちを新たに頑張っていこうと思います。またいろいろな行事など予定しておりますので、ご家族の皆様のご協力とご理解をお願いします。

また東日本大震災で被害にあわれた皆様へ、心からお見舞い申し上げます。1日も早い復興のため、施設としても微力ながら協力していきたいです。

## 〈職員紹介〉



氏名：木下 朋子

一言コメント：まだまだ、これから沢山覚えていく事がありますが頑張っていきますので宜しくお願いします。



氏名：長谷川 哲也

一言コメント：4月から正職員になりました。利用者の方の助けとなれるように、理想の介護を目指していきたいです。



氏名：村井 いくこ

一言コメント：介護職は初めてです。利用者の方の信頼を得られるように頑張っていきたいです。宜しくお願いします。



## 行事報告

### ～ひな祭り会～

3月3日(木)に鳥の里では誕生会を兼ねてのひな祭り会をしました。お内裏様やお雛様の形をしたまんじゅうや三色ケーキなどが入ったおやつ弁当に、普段はあまり食が進まない方も「おいしかった～全部食べれたわ～」と嬉しそうに話をしてくれました。また、今回は富士産業の方がホールでたこ焼きを焼いてくれました。たこ焼きのいい匂いに、皆さん1個2個と美味しそうに食べてみえ五感で楽しむひな祭り会でした。



### ～花植え～

4月の暖かい日に、中庭で花壇作りをしました。参加された方は、自分の好きな花を選んで楽しそうに植えていました。とても素敵な花壇を作ることが出来ました。また、畑で季節毎の野菜を作る計画もしています。



### ～次回のサンサン相談室のご案内～

日時：平成23年5月28日(土) 10:00～12:00

場所：地域生活支援センターひびき2階(のぞみの丘ホスピタル正面)

内容：拡大座談会

～介護者の方同士で日頃の思いを話したり、聞いたりしませんか？  
皆さんの参加をお待ちしています。参加ご希望の方は相談員まで・・・

## 避難訓練

3月25日（金）に避難訓練を行いました。震災後ということもあり緊張感をもって訓練を行いました。その際、偶然面会にみえていたご家族の方も訓練に参加され、「今日は出入口付近までの移動訓練だったが、実際はどんな風になるか分かりませんね」「地震でドアが開かないことも考えられるし、そうした場合の出入り所とかも考えなくてはいけないのですね」といった感想をいただきました。実際の震災などでは、様々な状況が想定されます。避難通路なども踏まえた、震災時マニュアルを再度確認する必要があると感じました。



## 【5月・6月の行事予定】

### 〈鳥の里〉

- 5月・・・カレー作り（日時未定）&誕生日会
- 6月21日（火）・・・おやつバイキング&誕生日会

### 〈花の園〉

- 5月18日（水）25日（水）・・・喫茶外出
- 6月14日（火）・・・カラオケ大会&誕生日会

## 【“認知症”病状及び対応の仕方】

地域支援部長による、認知症の方への対応の仕方や病状の特徴についての勉強会を行いましたので報告します。

### ◇認知症の方と上手く接するには

#### ◎認知症の特徴を知る

- ①認知症は心の病気である（記憶障害、物事の判断・常識の衰え）
- ②感情・五感は保持されているため傷つきやすい
- ③不安・混乱に陥りやすく、妄想に発展しやすい

#### ◎認知症特有の行動に対する関わり方

- 1) 同じことを何度も言う（帰宅要求など）  
→いつも同じ答えでよい。叱らない・怒らない・言い聞かせない。  
安心感の提供。受容と傾聴。音楽や散歩などして気分転換を図る。
- 2) 攻撃的  
→怒っている理由を根掘り葉掘り聞かない。関わる介護者を変える。  
少し距離を置く。興味に合わせて話しかけ気分転換を図る。
- 3) 徘徊（帰宅要求）  
→声かけをしソファ等で休憩し、お茶やお菓子を勧める。  
時間を決めて散歩する。
- 4) 妄想（物盗られ妄想・嫉妬妄想）  
→いくら説明しても、訂正がきかないことを念頭において関わる。  
訂正するのではなく困った気持ちを大切に気長に接する。
- 5) 食事拒否  
→本人のペース（心の状態）に合わせる。無理にすすめない。  
食事内容を工夫し、食べやすい物（アイスクリーム・プリン）をすすめる。  
体調が悪いとき（疲れている・便秘・下痢など）は、体調を整える。
- 6) 入浴拒否  
→少し時間を置いてから再度誘う。誘う介護者を変える。無理強いさせない・急がせない。
- 7) 弄便  
→失敗を叱らない。さり気なく素早く片付ける。

今回の勉強会で、認知症は心の病気であると再確認することができました。普段接している声かけや対応などに役立てていきたいと思いました。また、一人一人の方の生活歴や人生背景を知り深く関わっていく必要があると感じました。